

問題@1:2020年にはオリンピックとともにパラリンピックが東京で開催されます。板橋区でも障がいのある方々のスポーツ大会を毎年開催しています。そこで問題です。第1回「板橋区心身障害者スポーツ大会」が開催されたのは何年でしょうか？

答え@1:昭和56年(1981)です。

第1回「板橋区心身障害者スポーツ大会」は同年6月7日に赤塚体育館で行われました。この年は国連の定める国際障害者年でした。現在も「板橋区障がい者スポーツ大会」の名称で開催されています。今年の9月27日には小豆沢公園で第34回大会が行われました。

同大会に関しては以下のような資料があります。いずれも公文書館でご覧いただけます。

(1)「広報いたばし」第612号(昭和56年6月1日):第1回大会を前に障がい者とスポーツについての記事が載っています。【写真1】

(2)「板橋区民ニュース」第31号(昭和56年7月号):第1回大会の様子を映像で紹介しています。

(3)「事務実績調書」:各年度版に大会の実施月日と参加人数が載っています。

(4)「「障害」の表記の変更について」(公文書 事案番号17板福福第340号の1):平成18年度から順次「障害」から「障がい」へ表記を改めることが通知されています。それにともない同大会も表記が変わりました。

(5)写真:同大会の様子が記録されています。掲載したのは第1回大会と第2回大会の写真です。【写真2】・【写真3】

問題@2:昭和26年(1951)12月6日に東京都板橋区〇〇〇使用条例が公布されました。戦後の生業支援に区保有の〇〇〇を貸与する事業で、昭和39年(1964)まで実施されました。現在では足踏みから電動などになりましたが、家庭で使われることは少ないようです。〇〇〇は何でしょう？

答え@2:ミシンです。

東京都板橋区ミシン使用条例が昭和26年(1951)12月6日に公布・施行されました。ミシンの貸与による生業支援が目的です。終戦後の救済事業として、それまで東京都で実施されていたものが区へ移管され、条例を制定して事業を継続しました。

同条例は昭和39年(1964)に廃止されましたが、廃止を提案した公文書には「家庭生活の機械化の進歩等にともない、大むねの家庭でミシンを持つようになり、かつ、内職の形態も変遷し、家庭用ミシンでは家計を補助するに足る収益を上げることが困難となり」と、その理由が挙げられています。昭和30年頃から始まる高度経済成長は多くの人の生活を豊かにし、「家庭生活の機械化」が進みました。「三種の神器」(白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫)が国民の間に広まっていきます。それらよりも早くから普及し始めたミシンも、さらに家庭に浸透していきました。昭和39年といえば、東海道新幹線が開業し、東京オリンピックが催された年です。ミシン使用条例の制定と廃止は、戦後の困窮から脱却して高度成長の途をたどる当時の日本社会を反映しています。

同条例に関しては以下のような資料があります。いずれも公文書館でご覧いただけます。

(1)「東京都板橋区ミシン使用条例」(公文書 昭和26年11月。箱番号35-16-14)【写真4】

(2)「都有財産のミシンの譲与」(公文書 昭和26年12月。箱番号35-20-03)

(3)「東京都板橋区ミシン使用条例の廃止について」(公文書 昭和39年2月。箱番号35-16-14)



【写真1】「広報いたばし」第612号



【写真2】第1回
大会の様子



【写真3】第2回
大会の様子



【写真4】ミシン使用条例